

彼方「かなた」

校長通信
H25.3.19
Vol.39

【卒業生に学ぶ】

年度末保護者会へのご参加、心より感謝申し上げます。本日は、出張のため残念ながら校長挨拶ができません。この「彼方」に代えさせていただきますことをお許しください。

さて、先週十二日（水）に第六十七回卒業証書授



与式を挙行し、沢山の涙と大きな感動のうちに終わることができました。そこで、一六五名の卒業生が、私達に残していつてくれた沢山の学びの中からひとつだけみなさんにご紹介いたします。それは、進路実現を通しての学びです。

高校に進学したくない生徒は一人もいませんでした。どの生徒も漠然と高校生になると思っていました。ところが、三年生になり、担任の先生や学年の先生方と進路相談を進めるにつれて現実が見えてくるようになります。その時、大きく二つに分かれるのです。ひとつは積極的に進路と向き合う生徒、もうひとつは「どうせ…」と自己否定し、進路と向き合うのが遅くなる生徒です。

前者は、一学期中は部活動に一生懸命取り組みますが、後者は、部活動をサボりがちになります。

前者は、素直に自分で取り組めること（係活動や委員会活動等）に向き合いますが、後者は、できるだけやらないようにします。

前者は、先生によく相談に行きますが、後者は、現実に向き合えないので、先生に相談できません。

前者は、夏休みに高校訪問を積極的に行いますが、後者は、促されてもなかなか訪問できないでいます。

前者は、早い段階で受験校が決まりますが、後者は、当然ながらなかなか決まりません。

前者は目標が早めに決まるので、勉強に取りかかるのも早くなりますが、後者は、なかなか受験勉強に入れません。

今までもこのような指摘は沢山なされてきました。が、今年度の卒業生は、その状況をはっきり示してくれたような気がします。「**具体的な目標を早めに定めることが、意識を変え、行動を変える**」という学びを私達に示してくれたのです。

どの生徒も、三年生⇒進路実現という漠然とした不安を抱えて進級しますが、中学校卒業後の自分の姿をカラー写真のように具体的にイメージできる生徒は、多くはいません。不安を直視し、何をしなければならぬかを意識できる生徒は必ず変わります。その不安からなるべく遠くに自分を置く生徒は、今までと同じ生活を送ることで現実を見ずに過ごそうとします。三年生になり部活動や行事に打ち込む生徒が多くなりますが、進路から逃げてそれらに取り組む生徒と進路を直視した上でそれらに向き合う生徒では、同じ活動をしていてもその意識が全く違ってきます。部活でも行事でも勉強でも「**自分から**」

という意識の違いです。私達教師や保護者から一方的に言われ、指示されて動くのではなく、自分でできることを自分で考えて取り組んでいるのです。

「三年なんだから勉強しなさい」「最後の行事なんだからちゃんと取り組みなさい」と一生懸命指示しても生徒の中で「自分から」という意識が起らない限り、行動となつて表れることはないのです。

では、私達はどうすればよいのでしょうか。それは、生徒が教えてくれています。「あなたの先生は、どんな先生ですか？」「はい！私達の話しを最後まで聞いてくれるいい先生です。」これは、面接練習での会話です。生徒が望んでいるのは、**子どもの話しをよく聴く**大人なのです。最後までしっかり聴き続けてあげる大人なのです。どんな卒業後の生活がしたいかを映画で観ているようにイメージできるまで聴いて欲しいと思います。これは難しいことです。どうしても「しろしろ！」と言いたくなくなってしまいうから

です。でも答えは子どもの中にあります！卒業式の式辞で「人差し指」の話し（ホームページ校長室から）をしました。

周囲に原因を求めず自ら解決していけるよう今後支援していきたいと思えます。この一年間、皆様のご理解、ご協力いただき心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。次年度もよろしくお願ひします。

